

グリーン調達・省資源

グリーン調達の強化

富士フィルムグループでは2002年度より環境配慮設計基本規則を定め運用を開始していますが、この環境配慮設計による製品のグリーン化を確実に実現するために、原材料、部品、包材等「調達品のグリーン化」と、それらを供給していただく「お取引先のグリーン化」の両面を推進しています。

1. 調達品のグリーン化

2002年度に「調達品グリーン基準」を制定しました。規準は以下の通りでこれに基づく物品の調達を国内外のグループ会社でスタートさせています。

富士フィルムが定める化学物質管理分類に従い、次の条件を満たしていること。

- 1) 禁止化学物質に該当する化学物質を含まない。
- 2) 削減化学物質および含有量把握管理化学物質の含有量を把握・管理している。

富士フィルムは、JEITA(電子情報技術産業協会)が設立した「グリーン調達調査共通化協議会」に参画し、当協議会が設定した28化学物質群を対象に調査の共通化にも取り組んでいます。

また、2003年2月に欧州連合(EU)で発効された特定物質使用制限(RoHS)指令に対応するための活動も推進しています。

2. 調達品お取引先のグリーン化

「お取引先グリーン基準」は以下の通りです。

- 1) ISO14001認証取得済みあるいは今後3年以内に取得予定で認証機関が決まっているお取引先
- 2) それ以外の場合は、環境関連法規を遵守しており、富士フィルムが定めた特定化学物質を取り扱っておらず、富士フィルムが定めた環境保全・化学物質管理の要求12項目中70%以上が満たされているお取引先

2002年度には、お取引先489社に対して環境保全への取り組み状況を調査させていただきましたが、目標グリーン化率90%に対し、実績は94%であり、前年に対して10ポイント増加しました。2003年度末時点で、グリーン化率100%を目指しています。



取引会社に配付する「グリーン調達に関する調査」依頼の冊子

RoHS指令

the Restriction of the use of certain Hazardous Substances in electrical and electronic equipment
の略で、電気・電子機器製品を対象に、EUが実施する有害物質に関する規制。鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDEを製品への使用を2006年7月1日以降禁止する規制。

グリーン購入の促進

グリーン購入についても、「グリーン購入推進委員会」を中心にグリーン製品の探索や各事業所間で積極的な情報交換を行い、ISO14001の目的・目標にも組み入れています。その結果、2002年度末のグリーン購入率は99%(目標は90%)となりました。2003年度末までにグリーン購入率の100%達成を目ざして活動を推進しています。

グリーン購入率

対象品目の総購入額におけるグリーン商品購入金額の割合。
対象品目: OA用紙・印刷用紙、コピー機・プリンター・ファクシミリ、パソコン、文具・事務用品、一般生活用品



足柄工場ホームページのグリーン購入検索サイト

資源の有効活用

富士フィルムは限りある資源を無駄なく、有効に活用していくため、資源投入量の削減に力を入れています。2002年度、製造現場における主な物質投入量は以下の通りです。

■主な製品材料の投入量(富士フィルム国内6事業所のデータ)

銀(千トン)	0.87	(13.5%減)
ゼラチン(千トン)	3.6	(7.1%減)
PET(千トン)	51.2	()
TAC(千トン)	15.3	(29.4%増)
アルミ(千トン)	48.3	(0.4%減)

これまで取り組んできた省資源の一例を挙げますと、富士フィルムの主力製品である写真感光材料に使用する銀の量は、ここ20年余りでカラーネガフィルムにおいては半分以上に、カラーペーパーにおいては約1/3に減らしています。

■主な容器包装材料の投入量(富士フィルム国内6事業所のデータ)

2002年度に全面運用を開始しました容器包装データベースにより、製品単品レベルそして製品分野ごとの材質別集計が容易に把握できるようになりました。現在、これらの数値をもとに容器包装重量等の環境負荷削減の数値目標を設定すべく検討を進めています。2002年度は、紙器+紙材の削減に努めました。紙製小箱をより軽量のプラスチック軟包装にしたことが大きく寄与しています。

素材別容器包装材料排出量の推移

